

伏見夢百衆

この建物は月桂冠の旧本社である。建設は、同社が日本酒 2 万石（360 万リットル）の生産目標を達成したことを記念して、1917 年に始まった。1919 年に完成したその建物は、高い天井、木製の椅子、緑豊かなカーペット、ガラスフレームがはめ込まれた木製の欄間、アップライトピアノがあり、大正時代（1912～1926）の建築様式の美しい一つの例である。その雰囲気は繁栄したビクトリア朝の貿易事務所を連想させる。

ここでは酒を販売していた。建設当時、この建物は洒落た近代様式の極みだったに違いない。現在は、軽食を食べてリラックスでき、日本酒の試飲を楽しんだり、伏見土産を買える、伏見夢百衆と呼ばれるとても楽しいカフェとお店である。

間取り図は、1 階のオフィスがもともとどのようにレイアウトされていたか示されており、西洋風の会議室、畳のオフィススペース、社長室、広々とした日本庭園が描かれている。古い月桂冠の酒器と印象的な銅製酒蒸し器が、ガラスの飾り棚の中に展示されている。古い会社の金庫は、おそらく大きすぎて取り除けないため、隅に残されている。建物は 1993 年に復元され、屋根瓦など、元の建物から取られた資材のほとんどが再利用された。